

新潟港開港 150 周年まであと 2 年

信濃川ウォーターシャトルから盛り上げる案内人養成事業

リパークルーズ愛好会

2019 年に開港 150 周年を迎える新潟港を多くの人に認知してもらい、川湊の特徴や日本一の川、信濃川を地域の誇りとして認知してもらえる個性的な案内人の養成を行いたいと募集をかけ 6 回の講座を行った。また信濃川ウォーターシャトルの通年パスも進呈し、いつでも何回でも乗船でき案内の練習ができるように取り組んだ。多くの個性豊かな方々の参加で次年度に続く事業に発展でき、開港 150 周年事業に協力してもらえる人材育成が出来上がるのではと期待している。以下取り組みの概要を記載する。

1 年間スケジュール作成

- ① 案内人養成講座の実施に伴い、信濃川ウォーターシャトルの運航予定と養成講座の実施日を調整する
- ② アドバイザー・ガイド指導者とスケジュールや内容について、また募集告知について相談する
- ③ 募集用チラシの作成



主催：リパークルーズ愛好会 協力：一般社団法人 北陸地域づくり協会

信濃川ウォーターシャトル案内人養成講座

信濃川の河口の港として栄えた新潟港は2019年に開港150年を迎えます。新潟市の観光資源としてますます注目される信濃川ウォーターシャトル。船上ガイドの実践を通して、信濃川と新潟市について学びませんか！

期日：平成29年7～12月の間で全6回
①新潟市の概要 ②信濃川について ③案内人としてのマナー ④ガイドのシナリオ作り ⑤乗船体験 ⑥講師案内体験 ⑦案内人実演

案内人養成講座 受講生募集

【募集締切】平成29年7月15日 ※定員に達し次第締め切ります。
【受講条件】不定期で平日や休日に活動できる方
【募集人数】20人
【受講料】信濃川ウォーターシャトルのシーズンパスポートを運賃
【申し込み】リパークルーズ愛好会事務局までお電話にてお申し込みください。
TEL 025-227-5200 事務局（信濃川ウォーターシャトル事務局内）

受講料 無料



信濃川ウォーターシャトル案内人養成講座

スケジュール

日程	会場	内容
① 7月19日(水)	集賢メッセ会議室	顔合わせ 新潟市と信濃川について
② 8月23日(水)	信濃川ウォーターシャトル	体験乗船 ガイド＆セナー講習
③ 9月6日(水)	集賢メッセ会議室	ガイドシナリオ作り・発表会
④ 10月14日(土)	信濃川ウォーターシャトル	ガイド乗船発表会
⑤ 11月15日(水)	信濃川ウォーターシャトル、ほか	案内人実演
⑥ 12月6日(水)	信濃川ウォーターシャトル	案内人実演

※全日程で参加ください。日程、内容は変更場合があります。受講には参加料がかかります。
※高校生以上の方は、次年度以降信濃川ウォーターシャトル案内人シニアガイドとして参加できます。
開催所には信濃川ウォーターシャトルのシーズンパスポートを運賃におまかせいたします。

主催：リパークルーズ愛好会
新潟市中央区 大町通二丁目
2230-33 信濃川ウォーターシャトル案内人センター内
信濃川ウォーターシャトル6(船)内
TEL 025-227-5200
協力：一般社団法人 北陸地域づくり協会



信濃川の「案内人」募集

信濃川の案内人になりませんか。任意団体のリパークルーズ愛好会(新潟市)は水上バス「信濃川」を始める。12月まで計6回開く講習会への参加者を募集。" data-bbox="650 458 895 725"/>

信濃川の案内人になりませんか。任意団体のリパークルーズ愛好会(新潟市)は水上バス「信濃川」を始める。12月まで計6回開く講習会への参加者を募集。" data-bbox="650 458 895 725"/>

水上バスで観光ガイド
愛好家が講習会開催

新潟市や信濃川の魅力を学び、自らガイドの台本を作ったり、乗船してガイドを体験したりする。2019年の新潟開港150周年を記念して企画で、水上バスのファンや運転会社でつくる愛好会が主催する。船内では現在、CDの音声を流しているが、事務局は「それぞれのガイドの魅力を伝えてほしい」という。問い合わせは信濃川愛好会(025・227・5200)へ。

- ④ 市役所の市政記者クラブへの告知取材依頼、信濃川ウォーターシャトルファンクラブ等への郵送案内などを行う。日本経済新聞等が告知記事掲載(右上)

また放送局数社が開講式等の取材希望の連絡が入る講座の平日開催については時間の自由になるシニア世代をターゲットにして今後の様々な活動に協力できる体制づくりをしたい等の期待をもって臨んだ結果、20人定員のところ21人が集まった。

2 養成講座

7月 開講式

シニア世代を中心に、21人が開講式に臨む。信濃川に関わりのある企業・団体の方から参考になる資料やお話をたくさん頂戴し、また応援メッセージ等を頂いた。



8月 体験乗船

体験乗船。ガイド指導者の関さんのガイドで新潟ふるさと村までの航路を往復乗船。何度も乗船してる船の愛好家から初めて乗る人まで様々なメンバー。また新潟のシティガイドさんや阿賀野川舟下りのガイド経験者などがある中、浚渫船の企業にお勤めだった方もいて浚渫船の話をみなさんに聞いてもらう場面もあった。経歴も思いもさまざま、また英語の得意な方もいて、多方面な方々が集まっていることを実感する。今後の案内人としても活躍が期待できるメンバーがそろったようだ。



9月 ガイドシナリオづくり

4つの班に分けて、班ごとにシナリオの確認や他人のガイドを聞く作業を行う。船の経路図にガイド文を書き込む作業の中で、すでにガイド文を入れて作り上げている人など、意気込みが感じられる一方で、軽い気持ちで参加した人には大きなプレッシャーになっているようだった。しかし班長さんを中心に班ごとの発表の時間を後半にとると班ごとのまとまりも出てきて、この班分けがやる気を引き出したようだ。次回までにまとまって練習する班や時間を合わせて乗船してみる班が出るなど、レベルの違いをいい形で調整できた班分けであったと感じられた。



10月 ガイド乗船発表会

班ごとでの練習成果発表会 班の中で順番にガイドをしてそれぞれお互いに意見を言い合ってもらった。班にはアドバイザーとして外部から4人の方にお越しいただき、乗船客としての意見もお話し頂いた。



乗船終了後、昼食会を実施した。終了後、この案内人養成講座に参加しての感想がでたり、今後終了してからの位置づけなどを心配する方もいて、終了後は希望者による話し合いの場が必要と感じた。

11月 案内人実践

一般の方々30人を無料で乗船させるということで一般の乗船客を募集して、みなとぴあから新潟ふるさと村までのコースを案内するというガイドの実践を行う。ほとんどの方が自信をもって案内しているほか、写真やイラストなどをもって分かりやすく、個性的なガイドをしている方もいた。また、乗船客の中には普段通りに料金を支払って乗船された県外の方もいらして、船上での案内付きをご希望されたので、近くにいた養成講座のメンバーが急遽対応させて頂いた。船を降りる際には大変良かったと喜ばれていた。情報が豊かにある人、生真面目な人、ガイドの経験豊かな人、物静かな人と個性がそれぞれ出てきたと感じられ、ますます今後が楽しみになった。



12月 閉講式 講演会

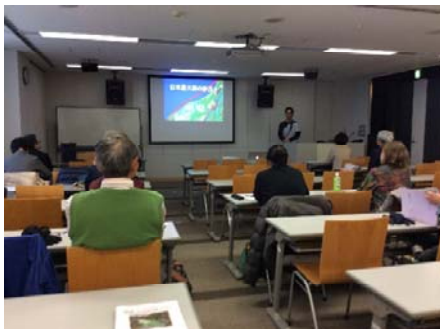
あいにくの雪模様で参加者の足並みがそろわず、当日欠席、遅刻等が相次いだ。

このため閉講式と講演会の順番を逆にして実施した。

講演者はブラタモリで新潟をご案内した野内隆裕さん「砂の町・新潟の楽しみ方」をお話し頂いた。

後半部分では新潟を案内するうえでの信濃川ウォーターシャトルをどう活かしていくか。イザベラバードの通った河川としてなど活用できそうなご意見を頂き、今後の活動にもご意見を頂くことになった。

1 時間後のスタートで修了式。残念ながら途中から参加できなくなった方が 4 人、当日欠席者が 6 人ほどであったが、阿賀野市から 3 時間かけて後半 30 分参加された方もいて真剣さが感じられた。修了者のアンケートを取りまとめ、新年早々には集会を持ち、今後の活動を模索していくことにする。



3 まとめ

平日開催ということで修了証を实际手にした人は 16 人。今後も活動したいという人は 10 人弱迷っている人若干ということであった。シニア世代の方は再就職あるいは何かしらの収入源となる可能性を秘めての受講という方もいらしたと、今後信濃川ウォーターシャトルの会社が何かしらの依頼をして活動できると考えられている方もいて、最終的な全体の方向付けにまでまとめることが出来なかった。チャーター以外の周遊便で 100 人定員の船の中で今後案内人をどう活用していくかはさらに検討の必要がある。

また、1 月には引き続き案内人の継続を希望する方々で組織を作り、実施出来るイベント的なウォーターシャトルの活用に向けて年度末に模索をする。次年度は継続の人やにいがたシティガイドの方々との連携を深め、まち歩きの中に船の案内を取り入れるとか、案内人それぞれの個性を活かしたチャーター便の運航などを定期で行えるようにすすめていく。開港 150 周年には養成講座から多くのボランティアが参画できるように、バックアップをしていきたいと考えている。このような人材育成の機会を与えていただき、また途中の案内人の訓練実習の際にはご協力頂いた北陸地域づくり協会には心より感謝申し上げます。